

米欧亜回覧

第40号

発行

特定非営利活動法人

米欧亜回覧の会

編集 総務部会

五百旗頭真教授

「日本の近代、百五十年」を語る！

―七月の全体例会

七月の第三十七回全体例会は、二十六日(土)、日本プレスセンターの十階ホールで約七十名の参加を得て開催され、一部で会務報告、二部で講演、三部で懇親会が行われた。

会務報告では泉代表の全体報告、青年部会が新たに加わり六人となった各幹事からそれぞれの部会報告があった。二部は五百旗頭(いおきべ)真神戸大学教授の講演で、「大テーマ」日本の近代百五十年」に関し、二時間半を一気によどみなく、ときには感動的なエピソードも交えて講演、参加者に大いなる感銘を与えた。なお、新橋亭での懇親会には教授も参加され盛会だった。



五百旗頭真教授 (7月全体例会)

ソードも交えて講演、参加者に大いなる感銘を与えた。なお、新橋亭での懇親会には教授も参加され盛会だった。

(詳細は二、三頁)

現代語訳・米欧回覧実記

反響大きく、売れ行き好調

当会企画・水沢周訳の『現代語訳・米欧回覧実記』は、日本経済新聞をはじめ各メディアで取り上げられて大きな反響を呼んでいる。

また、売れ行きもこの種の本としては異例な好調さで、初版は完売、八月一日に増刷分も刊行された。

(四頁に関連記事)

DVD特別賛助金

百三十万円を超える

「現代語訳の出版」に続く当会の企画「映像のDVD化」事業が静かに進行している。その第一段階は、資金確保の問題で、特別賛助金を七月二十五日付けで会員ならびにシンパ

非会員に代表の泉三郎名でお願い書を郵送した。

その結果、八月末日の時点で八十五名(非会員も含む)、総計百三十一口が振り込まれた。

また、編集に関しては、「DVDにするためにビデオを見る会」を二回にわたり開催し、さまざまな意見を聴き取ることができた。これを参考にし、シナリオのリライト、映像の補充、テロップ、ナレーションの工夫、添付資料などについての編集作業をすすめる予定である。

(四頁に関連記事)

メールマガジン発行、ホームページも更新へ

ホームページも更新へ

現在のニュースは年四回発行であるため速報性に難があり問題になっていたが、それを補足するために「月刊メールマガジン」を発行することになった。

そして、楠木孝雄幹事が担当となり、六月末に創刊号、七月末に二号、八月末に三号が発行された。

これは当初、併せてファックス・マガジンとする考えもあったが、その作業が複雑なので現在はメール登録をしたメンバーだけに配送している。

また、ホームページの更新が問題になっていたが、現在担当者間で鋭意制作中であり、近々新装なったホームページがみられる予定である。

今、日本列島は「選挙」一色で一方ならぬ喧噪の中にある。が、百三十年前にアメリカ滞在中の岩倉使節団一行もその「選挙」の喧噪に遭遇していた。久米はその模様を「実記」にこう書いた。

「各都府二両党ノ集会、処処ニ堂屋ヲ占メ、大書シテ某党ノ集会場と張出スアリ、大旗ニ書シテ通街ニ掲ケタルアリ、市塵ニハ両氏ノ写真ヲ、各種ノ服飾ニ仕込ミテ売出シ、其喧キ一方ナラス、イツクモ選挙ノウワサノミナリ」

当時アメリカは大統領の予備選挙の最中だった。現職の大統領グラント將軍とニューヨーク・トリビューンのグリーリー社長とが激しく争っていたのだ。

さて、このくだり、「水沢・現代語訳」ではどうなるか。「各都市では両党の集会がほうぼうのホールで行われており、何々党の集会と大きく書いた看板を出したり、その旨を書いた大きな旗を通して掲げたり、また商店街でも両氏の写真をいろいろの阿克セサリーに仕立てて売

ポピュリズムと「女人刺客」

泉 三郎

り出したりして、その騒ぎはひとおりのものではなく、どこもかしこも選挙のうわさばかりであった」
久米は米国の「選挙方式」を一方で「公平ヲ極メタルニ似タリ」と認めながら、「卓見ト遠識ハ必ス庸人ノ耳目ニ感セス」とも評し、ポピュリズムや愚民政治に随し、多数決を「上策ハ廢シテ下策ニ帰スルヲ常トスル」とその弊害も鋭く衝いている。

ところで、現代日本の「選挙」状況がいかんか。アメリカ人も驚く「刺客」が大挙登場して喧しい。それもにか仕立ての美女?ぞろいの「女人刺客」だとなると、これはもう何をかいわんや、暴挙に近い。いま、久米邦武ありとすればこれをどう評するか。寡黙にして真のリアリストだった大宰相、大久保利通だったらどういうか。明治六年八月、征韓論が沸騰する中での大久保の言葉が想起される。「国家の事、一時の噴発力にて暴挙いたし愉快を唱えるようなことにては決して成るべき訳なし」。

第37回 全体例会

会務報告と五百旗頭教授の講演

七月二十六日・日本プレスセンターで開催

◇会務報告

全体例会第一部は約七十名の出席のもと、浅沼氏の総合司会で進められた。

まず泉代表より①現代語訳のその後の状況、②映像のDVD化への取組状況、③来年秋の十周年記念事業について報告があり、引き続き、各部会報告、および新入会員の紹介(鳥羽氏)、久し振りの出席会員の挨拶(近藤氏、林氏、石垣氏、小谷氏)なども行われた。

▽実記を読む会(三原氏)

例会は、毎月第一木曜日の夕方。来る九月八日の例会は八十八回目にあたる記念の会であるので、多くの方の参加を期待している。

▽英訳実記を読む会(岩崎氏)

例会は、毎月第三木曜日の夕



五百旗頭教授

方。順調に会を重ね、二十九回目の例会を終えた。「読む会」と併せて出席される方もあり、さらに多くの方の参加を期待している。

▽歴史部会(小野氏)

六月例会はメンバーの永富氏による発表会を行った。三十名の出席があり、活発な意見交換があった。今後とも二ヶ月ごとに例会を開きたい。

▽現未来部会(小田氏)

例会は毎年四回。常時出席されるのは二、三十名ぐらい。六月の会では靖国問題を中心に活発な議論があった。議論することの重要性を確認し、多面的な視野を養うことに少しでも役に立てればと考えている。

▽青年部会(山本氏)

メンバーは現在十六名、毎月第一金曜日の午後八時より開催している。夜遅い時間の開催になっているが、他部会からの参加、会員外の飛び入り臨時参加もあり順調に会を進めている。

五、七月は現代語訳を読む会、六月は石川氏のレポート「木戸と明治の人材教育」、八月は水澤氏のレポートをメインに長野県のペンションでの合宿(映像を見て、議論をする会

も)を行った。

▽総務部会(楠木氏、山田氏)

楠木氏よりメルマガについての現状報告、六月三十日に第一号を発行し、以後毎月月末に発行、ニュースの発行間隔を埋めるものとして「愛読いたただければ幸い。ホームページも現在改定作業中。山田氏より①個人情報保護法への対応について②三月決算の都庁(NPO担当係)への提出終了について③事務局充実への協力依頼などの報告があった。

◇講演要旨

日本の近代、百五十年

この講演は歴史部会の担当で行われ、幹事の永富邦雄氏で行う予定です。

「私の本当に好きな歴史の話は、この会のような歴史の好きな皆さん、しかも多彩な経験をお持ちの民間人の集まりで、できるのは大変嬉しいことです」と前置きして、「日本の近代、百五十年」の大テーマを、明快にわかりやすく、時には感動的なエピソードを交え、ソフトな語り口で百五十分、よどみなく一気に語った。

以下はその要旨である。

■何故、日本だけが近代化できたか。

日本の近代、「ペリー来航から百五十年」を総括すれば、すばらしい面もあったし、ひどく

愚かな面もあった。ゴルフでいえば出入りの多いゴルフだった。ナイスショットを打つかと思えばとんでもない下手な球もうつ。しかし、トータルにみたら非西洋の国で、日本ほど急速に近代化に成功した国はなかった、そうみていいと思う。

近代はまさに地球が一体化するグローバルイゼーションの時代だった。産業革命が引き金で、蒸気船、蒸気車で、欧米列強が競いながら世界を再分割していった。このパワーは凄くて、非西洋世界はともに対抗できなかつた。それに対していち早くそれを取り込んで近代化を成し遂げ独立を維持しえたのは、シヤム(タイ)以外はお日本しかなかつた。何故、日本はそれができたのか。

原因の一つは、巨大な異文明に対処する経験・訓練を持つていたことである。日本はアジアの中心文明であつた中国にどう対応すべきかという経験をもち訓練を経た。いわば強大な外国文明に対応する型をもつていた。「天平の甕」という井上靖の小説があるが、鑑真和尚をつれてくる話である。当時、「唐・天竺」は「光輝く文明」だった。それに対処するには、果敢に彼の地に出かけて、「天上の火」を持ち帰ることだった。そこに憧れ、ロマンを求めて、危険を顧みず学びにくい。仏教の原理、律令制度、諸



7月全体例会(日本プレスセンターホール)

学問など、日本人は外部によいものがあると、それを「いいもの」と解る力をもっている。そして好奇心をもち、積極的に学びにいく、それが外部文明を摂取する原動力になっている。

それからとても大事なことは、自立性をもつていることである。聖徳太子は、生意気にも「日出ずる国の天子」と称して中国の皇帝に手紙を書き、誇りと主体性を堅持した。学ぶけれども自尊は失わない。そして摂取するうちにだんだん日本化していく、そういう「学びの型」を日本人は古くから築いてきた。

むろん、それを可能にしたものに地理的条件がある。島国ということだからこそ、モンゴルの猛攻も防ぎ得たし、極東にあつただけに西洋列強の来航

も遅れた。ところがいったん接触すると、一度は戦ってみる。それだけの元気がある。薩摩にしても長州にしても、英国や米英露蘭と戦う。そして不利と悟ると、たちまち和を講じて学びに行く。日本は欧米に留学生を出す、使節を派遣する、その最大で象徴的なものが、岩倉使節団である。

■五つの選択肢

さて、日本は近代化の初期に、五つの選択肢(レジメ・日本における国家構想の展開図を配布)があったと思う。多様な選択肢をもてたことは誇りにしている。

まず、本流ともいふべきは、大久保利通の路線で、伊藤博文、陸奥宗光、原敬と継承される、憲政・議会制・殖産興業路線である。

次に、山県有朋の路線で官僚主導、軍部官僚主導である。これは後に「生命線」を確保する大陸拡張路線になる。

三つ目が坂本龍馬の通商、海洋国家路線、産業貿易立国である。これは実業では渋沢栄一や岩崎弥太郎、海軍では佐藤鉄太郎、外交では幣原喜重郎、ジャーナリズムでは石橋湛山が継ぐ路線である。佐藤にも石橋にも「満韓捨つべし」の主張があった。

それから、福沢諭吉の「民の自立」論である。吉野作造もこの路線といえる。

そして、五つ目に西郷隆盛の道義国家路線がある。これは日本精神を重視する「和魂」路線ともいえる。頭山満、内田良平などに引き継がれる。

日本は、明治六年の政変で、大久保路線が確定し伊藤が継承するが、その後の原敬の暗殺や恐慌などの社会情勢の変化や、山県路線、それも軍部官僚独走路線へと傾斜していつてしまう。そして、あの戦争の泥沼にはまりこんでいく。

そして一九四五年の敗戦。それはまさに未曾有の亡国の危機であった。しかし、日本は英明な昭和天皇や鈴木貫太郎首相の裁断によって、最後のところで踏みとどまり危うく国家としての存在を維持した。無私の天皇に感動したマッカーサー将軍の存在も大きかった。

戦後は、吉田茂路線である。これは軽軍備経済国家路線であり、大久保の本流と龍馬の通商国家路線の複合復活といっている。これは池田勇人や佐藤栄作に継承されて、日本は議会制民主主義と通商経済国家へと発展していく。経済面では途中オイルショックがあったが、それを省エネ技術や各種のプロジェクトで切り抜けて、高度成長を継続し世界も驚く経済大国になりお世話した。

こうして日本は、ペリーより十五年で明治維新をやりとげ、それから約二十年で第一次産業革命をなし遂げる。そして十年で日露戦争に勝利し、世界に衝撃を与える、アジアのナショナリズムにすごい刺激を与えた。それから太平洋戦争だが、少なくとも当初は、アジア各地で植民地解放の役割を果たし歓迎された。しかし、その後、日本は自ら利権を欲しがり、西洋帝国主義の真似をして、アジア諸国を幻滅させた。

■坂の上の雲と尾根筋の霧

日本の近代、百五十年をふりかえると、やはり日露戦争の勝利まではすばらしい成功であった。ところが、日本は坂を上っていく時には、みんなが努力し集中できる。目標がはっきりしているときは見事である。ところが目標を達し、尾根筋にあがった時がむずかしい。尾根へ来ると霧の中に入ってしまった。目標を失って迷う。

本来はこの段階で、日本は次の目標をはっきりさせなくては行けなかった。しかし、現実には戦勝に驕り夜郎自大になって大陸侵略路線にのめりこむ。ここで大局観をもつバランスのとれたトップリーダーがいなかった。そこで、政治なして突っ走り、最後は陸軍官僚が、日本国民を「地獄の道連れ」にしていく形になった。

戦後はアメリカの周到な戦後処理戦略もあり、健気な日本国民の学習意欲と懸命な努力が復活して、日本を急速に復興

させ、通商産業国家へと変身していく。

戦後に国家目標はなかったかというところ、あったと思う。目指すべきは「安全と経済」であり、「平和と繁栄が暗黙の目標であった。それが吉田ドクトリンであり、日ソの冷戦下、日米安全保障を結び、いわば強国アメリカをパートナーとしてソ連の脅威に備え、米国の技術を導入し、世界の市場や資源を得て、経済発展の礎を築いていく。そして日本は奇跡の経済成長に成功する。

しかし、目標を達成した日本はここでも難しい状況にたちいたる。つまり、バブルにいつこんでしまう。成功体験が災いした。「成功しているじゃないか、変える必要はないだろう」ということで、既得権が根をはってしまふ。かつてと同じ、尾根筋での霧の中の暴走である。この結果、ものすごい負債、借金を背負ってしまった。

■国際的な役割と民の自立

さて、いま、日本はどんなことを目指すべきか。それは二つあると思う。

一つは世界の世話をやくこと、国際的役割を果たすことである。これだけ日本は世界中の資源を使い市場を得て豊かな生活をしている。そのお陰をこうむっている。だからそのお返しをし、世界のお世話をすることをしなければいけない。

日本はアメリカのいいなりになっているという批判がある。しかし、たとえば北朝鮮の核、ミサイル、やはり危ない。中国の脅威もだんだん大きくなる、アメリカのプレゼンス、日米同盟、それは日本の安全にとって大事である。

日本は、その上で、アメリカ追従ではなく、日本独自の考えや判断に基づき、むしろアメリカをコントロールしていく方がいいのことはしていかなくては行けない。強大なアメリカにも、しつかりものをいい、説得する力を持つべきだと思ふ。その意味では、カンボジアの和平では日本も大いに貢献したと思う。アメリカの政策に衝突して日本独自の認識と方策でカンボジアの和平を実現させた。これは評価されていい。

それから、もう一つ重要なことは、「民の自立」である。明治初年の福沢諭吉路線をもういちど再確認して、日本はすでに市民社会として成熟しているのだから、いまこそ「民の自立」をはからなければならぬ。

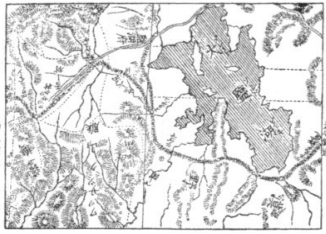
かつては上からの近代化が効率的だった。しかし、いまや官主導は実態にそぐわなくなっている。いまは民がやらなくてはならない。「民をもって民を養う」、「民の力で民の充実」をはかる、それが重要だと思ふ。

(文責 泉三郎)

現代語訳・米欧回覧実記 反響大きく、売れ行きも好調!

現代語訳『実記』は幸いな事に大きな反響を呼び続けている。売れ行きは、この種の本としては異例の好調さで、すでに七月時点で増刷が決定し、八月一日に増刷分六百セットが刊行された。

マスコミでも数多くの新聞・雑誌に大きく取り上げられ、取材、講演、原稿依頼などが水沢周氏や当会に続いている。記事・書評などのかたちとして取り上げた新聞は、今まで確認したところ「読売新聞」(執筆記事・コラム・書評)、「毎日新聞」(コラム)、「朝日新聞」(紹介記事)、「日本経済新聞」(記事)、「東京新聞」(執筆記事)、「中部日本新聞」(執筆記事)、「東京新聞」から転載、「秋田さきがけ新聞」、「河北新報」、「下野新聞」、「信濃毎日新聞」、「南海新



『現代語訳』1巻・141P図版南が上になった原本の地図を採用している。(岩波文庫版では反転させたイラスト地図)

聞」、「日本海新聞」、「日本新聞」(以上各紙は「共同通信」の配信によるインタビュー記事掲載)、「公明新聞」(執筆記事)、「三田キャンパス新聞」(インタビュー記事)、「図書新聞」(書評)などで、雑誌としては「歴史読本」(紹介記事)、「エピックワールド」(連載執筆記事)などがある。

また、訳者に対する『実記』についての講演依頼もあり、「東京都市長会」(東京都二十六都市市長の協議団体)、「交詢社」(慶應義塾大学出身者を中心とした社交団体)、「日曜クラブ」(出版社、ジャーナリストを中心とした社交団体)などの講演をすでに行ったり予定していたりしている。

公共図書館や大学、研究室などからの引き合いや講演が多いことも特徴的で、また、図書館の評判を聞くところでは、堅い本としては貸し出し件数が目だって多いとのこと。「日本経済新聞」の記事は、現代語訳についてだけではなく、原典や英訳についても触れ、今後の研究の方向も視野に入れた、幅広い関心を

喚起するような姿勢のものだった。それを契機として、今後さらさら人々の関心が深まり、売れ行きが継続的に伸びる期待が持てる。

出来ればこの勢いを保持し、普及版の発行まで漕ぎ着けて岩倉使節団や日本の近代化研究の視野を大きく広げたいところである。さらに会員の皆さんのご協力をお願いしたい。

DVDの編集並びに 特別賛助金について

DVD制作については特別賛助金の振り込みも好調に推移しており資金的にもある程度は見通しがついてきたので、いよいよ泉三郎氏を中心に編集作業が始まった。

現在のビデオについてはすでにいろいろの問題点が指摘されていたが、今回の二回にわたる「ビデオを見る会」でさらに各種の意見が出された。そこで、これらを勘案しながら編集作業が進められることになる。

さて、従来のビデオをDVDにした場合、どのような利点があるのか。簡略にいえば次のようになるだろう。一、デジタルになることで画面がより鮮明になる、しかも画面の劣化がない。

出版案内

中村政則著 戦後史

岩波新書・新赤版九五五
税込八百四十円

全体例会の講演や歴史部会の日本近現代史・連続セミナー(二〇〇四年一月、三月)の講師としてお馴染みの中村政則氏(神奈川大学教授)の新著が七月二十二日に発刊となった。



会員の西井正臣氏が取材対象として、半澤健市氏が校正手伝い者として「あとがき」に出てくる、当会とも関連が深い必読の好著である。

二、各巻(現在三巻)の時間的制約がなくなり、編集内容をさらに豊富にできる。

三、チャプターに分けて編集できるので、どこのチャプター(章)からでも見る事ができる。序章だけ、米国だけ、英国だけ、パリのところだけ、どれも好きなどころから、好きな分だけ見ることができる。このことは、講演教材として使う場合など、とても便利である。

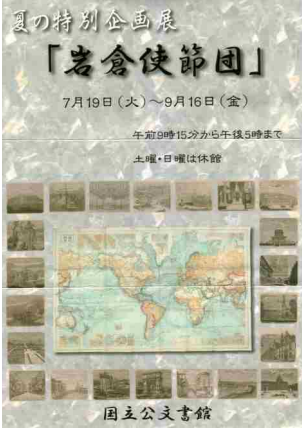
四、「特典映像」という方式を使えるので、これは予算との関係があるが、使節団のメンバーや留学生の写真、その略歴なども盛り込める。他にも目下検討中だが、旅程や時代背景なども映像で見られるようにすることが可能である。

五、DVDはプロジェクトで大画面にも映写でき、家庭のテレビのモニターでも見られ、パソコンの液晶画面でも

ることができるようになる。六、市販が可能になり、「現代語訳」の出版と同様、当会の財務に寄与することが期待できる。

なお、予算については、現時点ではなお三百五十万円が不足であるが、当面は基本的な部分の編集作業をすすめ、資金の集まり状況に応じて内容を充実しより高度な映像技術を活用することを考えている。

したがって、これから特別賛助金を振り込みいただける方は、DVDの購入予約の感覚でよろしくお願ひしたい。また、お知り合いの中に、基金、財団、篤志家、法人などで寄付していただける可能性のあるところがあればお知らせください。せっかくの機会であり、なるべくよい作品を作りたいと考えている。



ネット展 & 展示会

インターネット特別展
公文書に見る 岩倉使節団
 知識ヲ世界ニ求メ
 使節団とは 主要人物紹介 用語集 参考文献 操作説明

国立公文書館アジア歴史資料センターホームページでは、充実したインターネット特別展「公文書に見る岩倉使節団」を開催中である。インターネット上で閲覧できる主な展示内容は、年表(一八六八年〜一八七八年)、使節団とは(構成員、目的、時代、記録)、主要人物紹介、用語集、参考文献などである。

また、国立公文書館(千代田区北の丸三)では夏の特別企画展として「岩倉使節団」を開催中である。使節団が行った条約改正の予備交渉、留守を預かった太政官との連絡、視察に伴う雑務書類など帰国後にまとめられた公文書などが紹介されている。

七月十九日〜九月十六日(金) 九時十五分〜十七時。土・日は休館。

国立公文書館アジア歴史資料センター・インターネット特別展 <http://www.jacar.go.jp/iwakura/index2.html>



展示会

★米
★国
★報

「ドイツにおける岩倉使節団」ー欧米に向けた日本の開国ー

主催：久米美術館、佐賀県立博物館・美術館、鹿児島県歴史資料センター黎明館
 共催：京都ドイツ文化センター、独立行政法人国際交流基金京都支部
 後援：京都新聞社(予定)

久米美術館(品川区上大崎2-25-5)
 10月8日(土)〜11月27日(日) / 月曜休館
 10時〜17時(入館は16時30分まで)
 入館料：一般500円

2000年のドイツが当会初の海外ツアー。パントナー教授(中央)を訪ねた際、展示会のパネルも見せていただいた。

「ドイツにおける岩倉使節団展」は、二〇〇一年の国際シンポジウムの公開フォーラムでパネリストを務めたボン大学日本文化研究所のペーター・パントナー教授によって発案・企画され、一九九九年〜二〇〇〇年にかけてドイツ各地で催された展示会である。

このたびは日本において、オリジナル・パネルをそのままの形で使用し、各パネルの横に日本語抄訳および日本人向けに書き加えた解説文をそえる形の再現が久米美術館を皮切りに佐賀(十一月六日〜)、鹿児島(一月二十日〜)、京都(二月二十一日〜)の各地で開催される。

東京(久米美術館)では、ドイツの展示では実現できなかった当時の貴重な原資料の展示やペーター・パントナー教授の講演会(十月八日・十六時〜十七時)も開催される。講演会は、佐賀県立佐賀城本丸歴史館でも十月十日(祝)に行われる予定である。

岩倉使節団のプレゼンテーションの試み

石川直義

今夏、米国に五十日間滞在するにあたって、事務局から借りて持っていったビデオ版「岩倉使節の米欧回覧・米国編」を、ノースカロライナ州グリーンズボロのメソヂイスト教会で、日本での滞在経験もあるブライアン・ウイルボー牧師の計らいにより八月七日(日)に一時間の時間をいただき、子供を含む約六十人の米国人に紹介した。

以前から米国人に紹介したいと願っていたので、到着後直ちにドイツ系米国女性ヘルガ・バルナさんの協力を得て英訳にとりかかった。当日は、その英訳をもとに、ナレーションを主に牧師夫人のジャッキーさん、スピーチの部分で私が受け持った英語による四十分の上映と質疑を行った。上映が終わると出席者から大きな拍手を頂く好評であったが、中でも一番受けたのは岩倉具視の米国議会でのスピーチだった。

映像の英語版はまだ先の課題であるが、不十分な仮訳でもこれほど喜ばせることができるなら、外国人に向けた英語版を早く完成したいとの感想をもった。

韓国公共放送KBSは、岩倉使節団に興味をもち、七月



韓国KBSの取材を受ける青年部会の臨時会合(8月24日)

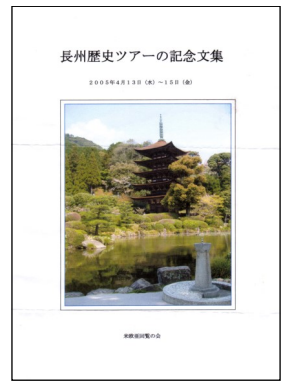
韓国のテレビ局KBS

岩倉使節団に興味！ 青年部会も取材

に泉三郎氏の取材を行い、八月には当会の活動についても追加取材の依頼があった。

そこで、青年部会の臨時会合が八月二十四日の夜、青年部会と幹事会メンバー合わせて十六名が参集し開催され、建国六十周年、日本との国交正常化四十周年を記念した特集番組「明治維新と日本の近代化(仮)」の取材に応じた。

プロデューサー黄大峻氏によれば、「東洋で一番早く近代化に成功した日本の姿を、明治維新前後の事件、登場人物を介して紹介することで、韓国の現役世代に日本の近代史を知ってもらおう」のが番組の趣旨。岩倉使節団の説明の中で、使節団の現代的意義を探る人たちの集団として「米欧亜回覧の会」をとりあげることだった。



長州歴史ツアー 記念文集を頒布

前号で報告記事を掲載したとおり、四月十三～十五日に長州歴史ツアー(宇部、下関、萩、山口)が行われ、二十人の参加者を得て素晴らしい歴史探訪の旅ができた。このたび、有志によって記念文集が作成され、参加者に配布された。

「長州歴史ツアーの記念文集」は、カラー十一枚を含む五十頁におよぶ紀行文、写真、論文等の充実した内容で、予備を事務局で保管している。一部千円(送料二百円)で頒布している。ツアーに参加できなかった方など、希望者は事務局に申し込みください。希望が多い場合は増刷の用意もある。

海外歴史ツアーは中止

オーストリア、スイスを巡る今年の海外歴史ツアーは、九月十日出発で計画され仮募集をしていたが、残念ながら参加希望者が少なく中止となった。

実記を読む会報告

連絡 クラウンインターチェンジ

Tel 03-5469-2090 Fax 03-5469-2093

info@crown-interchange.com



■六月例会
二日開催、十九人参加。朗読、音読、質疑の後、桑名正行氏により「ヨーロッパ及びアメリカの気候と農業総論」の以下の発表があった。

一、「歴史を変えた種」キニーネ、サトウキビ、茶、綿花、じゃがいも

二、「そのころのアメリカ農業を管見する」南部の綿花・奴隷労働・南北戦争・草原地帯への入植過程・牛のロングドライブ、中西部・西部農業の発展、シカゴ

三、「その頃、大英帝国は絶頂期であった」エリートとイギリス経済の展開、農業革命と工業化、植物帝国主義(キューガーデン)

四、「第九十一巻ヨーロッパ気候及び農業総論のレジュメ」三種類の経済活動、九種類類の農作物、牧畜業、勸農会社(農業振興会)の指導力、農業博覧会

資料に「アメリカの歴史を知るための六十章」「明解アメリカ史」などの抜粋。
■七月例会
七日開催、参加二十人。

先ず三十四巻ニューカッスル府の記・下を金本氏が音読とまとめ。大歓迎を受けたこと、タイル橋の架設工事視察など。手書きの挿絵にして目で訴える努力までなされた。続いて長谷川氏が三十六巻セフィールド府の記を担当、三百頁から二十頁ほどをとうとうと音読。最後は初めて発表する渡部氏が三十五巻プラッツホルルト府の記を大変熱のこもったまとめに加え、現職の学校現場の思いを述べた。

水沢氏よりタイトルのソルテア邑(お嬢さんの名前をとった由)のコメントがあった。この邑においては、作業場のみならず、学校教育の場もつくり、老衰した職人のための養老院あり、病院もあつて村中の病人に医薬を与えた。また寺院もあり、冠婚葬祭にとどまらず、説教を通じて人々の心性を正すことまで考えられていた。これらを契機に、ナポレオン三世が設立した公園、労働者住宅などもあいまつて、繊維工場の労働者の生活環境の改善が進み、工場における給食なども普及したとのこと。

現代語訳増刷決定の朗報が発表され、それを祝って久保田の銘酒「千寿」で盃を挙げ、水沢氏の労をねぎらった。

英訳実記を読む会報告

連絡 岩崎洋三

Tel & Fax 03-3488-0532

zaa96087@oak.zero.ad.jp



■六月例会
十六日、例月よりやや出席者が少なく五名の参加。イギリス篇の第二十一章から二十二章まで読み進んだ。まず森本氏からイギリスの宗教論、三原氏から

ロンドン市概況、商業貿易規模小林からチームス川に架かる橋、市内交通事情、英国人と仏独、米国人との労働気質についてたどえを使った巧みな比較論を興味深く読んだ。

■七月例会

七月二十一日、参加者は十名。イギリス篇の第二十二章から二十三章まで、まず永島氏からロンドン市の概要の続きで、シテイ、ウエストミンスター、サザーク地区の紹介記事を、浅生氏から避暑のため女王ト謁見できなくなった経緯や、ケンジングトン博物館の成立の由来を、大森氏から欧州の発展はわずかこの四十年に過ぎないというよく知られたなフレーズで始まる久米の文明開化指針の提言を読んだ。原文や英文の解釈で議論が沸いたが、現代語訳が解釈の助けになる。

(文) 小林養丈

現未来部会報告

連絡 塚本弘

Tel 03-3211-2765 Fax 03-3213-1371

hiroshi.tsukamoto@jetro.go.jp



■憲法問題
六月七日、十九名が参加。戦後六十年、憲法調査会の報告書が公表され、今後の日本のあり方を改めて問い直す良い機会である。

冒頭小泉首相の「靖国神社参拝問題」についての問題提起があり、議論が活発に始まった。靖国神社の生い立ち、中国の度重なる謝罪要求への対応、死生観の相違、果ては文化の違い、国のあり方についての議論があつた。また憲法問題については、従来からある問題の指摘や、憲法改正の考え方等に留まらず、国の成り立ちや風土等まで幅広い議論がおこなわれたが時間切れとなった。主に象徴天皇制と安全保障問題が焦点となり、憲法改正の是非と絡めて次回も再び「その二」として議論を深めることとなった。

現未来部会は岩倉使節団と同じ気概で、現代・近未来の諸問題に真摯に取り組む、前向きな対応をすることを目的としている。皆で議論することにより、多角的な視野で、バランスの取れた考え方を養うことが出来ると思う。是非ご参加ください。

(文) 小田仁彦

歴史部会報告

連絡 半澤 健市

Tel&Fax 03-3717-5576

khanzawa@dh.catv.ne.jp



■鈴木貫太郎内閣の戦後処理

六月二十三日(木)、十八時三十分から日本工業倶楽部で開催。講師は、永富邦雄氏。

日本は先の戦争末期に、作家トーマス・マンをして、「日本には騎士道精神と人間の品位に対する感覚を備えた偉大なる宰相がいる」と言はしめ、平和主義者として、アメリカに信頼の厚かった男爵鈴木貫太郎提督が首相になって、見事な終戦処理を果たしたとの趣旨の講演であった。

大磯の吉田茂邸、木戸邸にも出入りしていたという永富氏は、戦中・戦後史に關しても相當に憧憬が深く、我々の知らなかったエピソードを交えて講演して頂いた。白眉は、これからは終戦の現場に立ち会った迫水書記官長に語ってもらいますと言って、迫水氏が自ら語った肉声の講演録音で、迫水の臨場感を持たせて講演を盛り上げた。

エピソードの幾つかを披露しよう。東条のロボットであった小磯内閣のあとを受けて、鈴木が組閣したのは、七十八歳の

高齡であった。天皇陛下自ら「引き受けてくれ」の一言で大役を引き受けた。奥さんが陛下の養育係をしたこともあり、天皇の信任は絶大だった。

五月十六日の時点で、鈴木は企画院に諮問し、本當の国力は九月一杯までしか持たないと知り、早期和平の意思を固めた。米国の親日派でもあった元駐日大使で國務省次官ジェセフ・グルーは鈴木首相就任を聞いて、日本が終戦に向うことを確信して、ポツダム宣言の草案にかかる。宣言をめぐっては、東郷外務大臣は、即時受諾を主張したが、日本は、ソ連の仲介に期待して時を過ぎすうちに、原爆が使われてしまい、ソ連にも反対に宣戦布告されてしまう。最高戦争指導会議が徹夜で行われ、三対三で対立したが、鈴木は最後に陛下のご聖断を仰ぎ、ポツダム宣言の受諾を決めた。

また、永富氏は、阿南陸相を非常に買っておられた。陸軍の反動を抑えるために、終戦に際し、厳しい言動をしていたが、陛下や鈴木首相の気持が一番よくわかっていた人のようだ。最後に、責任をすべて背負って自決した。

その他にも、様々な興味津々の話を交えながら、日本の終戦史が厚く語られた三時間であった。

(文) 小野博正

青年部会報告

連絡 山本 陽子

mase@yhb.att.ne.jp



■合宿

八月六日(土)に長野県南佐久郡八千穂村のペンションで合宿を行い、計十名が参加して水澤先生と「ソルトレイクシテイの一夜」を過ごした。

以下に、参加したメンバーの感想を列記する。

- ・条約改正検討時の日本国内の法整備状況と、宗教に関する見解など、今後も継続的に議論していきたいポイントと
- ・それまで活発に活動してきた使節団にとってこういういった内省する時間があったことは有意義であったのではと感じた。
- ・伊藤が自身の見解を固め、使節団内で議論を積み上げていく過程など大変興味深く、スムーズに次の目的地にたどり着いて見聞・外交活動を継続的に実施するより、実は効果的だったのでは、などと憶測している。

会場は白樺の多い静かな山の森の中にあり、午後の部と夜の部の間に水澤先生が参加者全員を地元の名所に案内してくださいました。

■メディアの取材

八月十三日(土)に日本経済新聞掲載された記事の取材に続き、二十四日(水)には韓国のKBS(韓国国内に全国ネットをもつ公営放送局)の「日曜スペシャルー明治維新と日本の近代化(仮題)」(KBS日曜スペシャルはNHKスペシャルのようなKBSを代表する看板ドキュメンタリー番組)の取材があり、青年部会メンバー七名を含む十六名が「今の日本は明治から何を学ぶことができるか」というテーマで討議した。

現在の日本が抱える問題として、モラルの低下、教育問題、責任感や使命感の稀薄さなどが指摘され、それぞれについて活発な議論が展開された。番組は、韓国にて九月二十四日と二十五日に放映される。

(文) 山本陽子 岡松暁子



青年部会合宿 (八千穂村)

関西支部報告

連絡 北村 彰一

shou1@f7.dion.ne.jp



■例会報告

七月二十六日、兵庫県立大学の瀧井助教を招き、一五名が参加。

六巻米国ネバダ州及びユタ部の記述より輪読、シカゴまで進んだ。インデアンに対する久米の理

解、「ルワメー」はララミーで西部劇の舞台であるが、先住民への苛酷な圧迫も見逃していない。シカゴへ入って消防ポンプの詳しい説明、日本はまだ破壊消防が主、欧米の水道が話題になる。佐伯氏より、ソルトレイクシテイのモルモン教信者に招かれての現地での見聞、アメリカ人の太平洋戦争観に対し大議論してきた話などがあつた。

最後は瀧井助教の話。明治憲法成立史を日本の「國のかたち」作りとして見ると、米欧の憲法調査のスタートであった岩倉使節団の見聞、更に伊藤博文の滞欧憲法調査、また山県有朋の欧州視察とその運営への影響など。助教のドイツ留学中に発見された事実などを含めて、大仏次郎論壇賞を受けた「文明史の中の明治憲法」という本になつたとのこと。

(文) 山崎岳磨

特定非営利活動法人
「米欧亜回覧の会」ご案内

- 趣 旨** この会は「岩倉使節団」に興味をもち、その記録である「米欧回覧実記」に関心を抱く人々の集まりです。
この大いなる旅と「実記」はまさに「温故知新」の宝庫と言えましょう。
この素材を媒体にして歴史をふりかえり現代の直面する諸問題についても自由に語りあおうという会です。
- 会 員** 上の趣旨に賛同する人なら誰でも入会できます。
- 例 会** 年に4回くらい全体例会をもちます。
- 部 会** テーマ別に読む会、歴史、現未来、総務部会等があり、映像サロン・勉強会・旅行会・研究会・シンポジウムなどを行っています。
- 機関紙** 年に4回程度機関紙を発行し活動報告や会員の意見発表、情報交換の媒体とします。
- 役 員** 理事長(泉三郎)他理事および監事で構成、会員の中から幹事十数名を選び、運営を担当します。
- 会 費** 年会費5,000円とし、主として通信費及び機関紙代に充当します。例会・部会・講演会などについては、その都度の会費とします。なお、遠隔地居住者、学生、仮入会希望者には準会員(年会費3,000円)の特典もあります。
- 事務局** 「イズミ・オフィス」に置きます。
〒192-0063 八王子市元横山町1-14-16
E-mail:info@iwakura-mission.gr.jp
TEL:0426-46-3310
FAX:0426-45-8700
- 入会申込**
入会申込書は事務局にあります。新規入会に際しては入会金5,000円を頂きます。
なお年会費などのお支払は郵便振込が便利です。
00180-2-580729 特定非営利活動法人米欧亜回覧の会



.....ホームページのご案内.....

◇米欧回覧ニュース第1号からのバックナンバー など

* 皆様のご意見をお聞かせ下さい

<http://www.iwakura-mission.jp>

<催し案内>

2005年9月～10月の予定です

☆第38回全体例会

日 時 : 10月29日 (土) 13:00～16:30
 場 所 : プレスセンターホール (内幸町)
 内 容 : 会務報告(13:00～13:45)
 現未来部会担当討論会(13:45～16:30)
 テーマ : 憲法問題を考える
 (会費等、詳しくは案内を別送)

☆実記を読む会“第88回”

日 時 : 9月8日 (木) 18 : 30～21 : 00
 場 所 : 南青山クラウンインターチェンジ
 電話 03-5469-2090
 日 程 : 夕食後、イギリス編 37巻～40巻
 会 費 : 3000円 (夕食・飲み物代含む)

☆英訳実記を読む会

日 時 : 9月15日 (木) 18 : 30～21 : 00
 場 所 : 財) 統計研究会会議室
 港区新橋1-18-16 日本生命ビル7階
 電話 03-3591-8496

☆現未来部会

日 時 : 9月28日 (水) 18 : 30～21 : 00
 場 所 : ジェトロ5階会議室 (03-3582-5376)
 テーマ : 憲法問題を考える (その2)
 会 費 : 1000円

☆歴史部会

日 時 : 9月21日 (水) 18 : 30～21 : 00
 場 所 : 南青山クラウンインターチェンジ
 電話 03-5469-2090
 講 師 : 田中仙堂氏 (大日本茶道学会副会長)
 演 題 : 秀吉と利休のイメージ
 一 明治・大正・昭和における変遷
 会 費 : 1500円

☆関西支部例会

日 時 : 10月18日 (木)
 場 所 : 神戸大凌霜クラブ会議室

編集後記

◇創設以来積み重ねてきた「実記を読む会」の例会が、九月で第八十八回となり、読む会の案内FAXに「人間で言うならさしづめ米寿の祝いをするところですよ」とあります。NPO法人となり間もなく十周年を迎えることができた土台に読む会があることは間違いありません。おめでとうございます。

◇読む会に続く「英訳実記を読む会」も、九月で第三十回となります。また、出来たばかりの青年部会が、「現代語訳を読む会」を含む活発なスタートダッシュで飛び出してきました。このような継続と発展的継承を平然と楽しみながらやってみようのが当会の力強さです。

◇昭島市図書館に『岩倉使節団という冒険』(文春新書)の音訳テープがあります。これは、障害者サービスの一環として昭島市図書館が当会会員の西川氏の依頼により泉三郎氏に著作権の利用許諾を得て制作した九十分テープ・全五巻の録音図書です。このような地道な活動の存在を知ると、メディアの多様化をすすめる際に忘れてはならないことがまた沢山あることに気づきます。